

麦作情報 (Vol.3)

1 1月以降の気象経過(図1)

<1月> 晴れの日が多く、降水量が少ない

1月は月をとおして晴れの日が多く、降水量はかなり少なくなりました。(1月の平均気温: 平年差+0.5℃, 日照時間: 平年比97%, 降水量: 平年比7.2%)

<2月> 高温傾向

2月は高温で推移し、特に下旬は平年差+2.6℃と気温が高くなりました。(2月の平均気温: 平年差+1.2℃, 日照時間: 平年比101%, 降水量: 平年比47%)

<3月> 気温が高いが11日に降雨

3月も高温傾向で推移していますが、11日には31mmの降雨がありました。

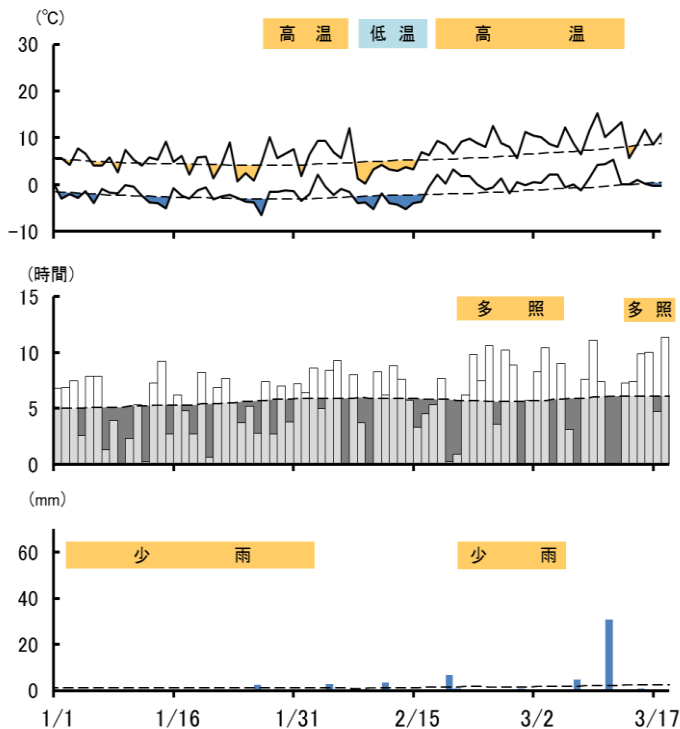


図1 気象経過(アメダス石巻)

※ 上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量
※ 点線は平年値

2 生育調査ほの生育状況

(3月18日現在, 表1, 下写真)

- ◆ 草丈は、すべてのほ場で平年を上回っています。
- ◆ 茎数は、大麦で平年を上回っていますが、小船越のシラネコムギで平年を下回っています。
- ◆ 幼穂長は、全体的に平年並~やや長くなっています。大麦は幼穂形成期(幼穂長2~3mm)に達しており、シュンライは平年並、ミノリムギで1週間程度早くなっています。小麦では幼穂長1mm程度です。

表1 生育調査ほ調査結果(3月18日調査)

品種	調査ほ (旧市町)	播種日(月日)			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
シュンライ	新田 (桃生)	10/20	-8	-2	15.6	+8.1	+3.3	1263	389%	274%	2.4	+1.0	-0.1
ミノリムギ	高須賀 (桃生)	10/19	-14	-4	14.9	+7.5	+1.2	855	802%	167%	2.6	+1.6	+0.7
	真野 (石巻)	10/26	+7	+3	13.0	+4.1	+1.0	636	161%	103%	2.9	+1.0	+0.9
ホワイトファイバー	高木 (石巻)	10/20	/	/	14.4	/	/	676	/	/	2.4	/	/
シラネコムギ	小船越 (河北)	11/01	-12	+8	14.0	+3.7	+1.6	713	288%	86%	0.7	+0.5	+0.0
	樫崎 (桃生)	10/26	-11	/	14.4	+5.3	/	1306	325%	/	1.1	+0.7	/

※ 平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

※ 高木ホワイトファイバー調査ほは調査1年目、樫崎シラネコムギ調査ほは、調査4年目のため平年差・比は記載しない。



3 今後の管理

(1) 排水対策

- ◆ 暗きよの水閘が閉じているほ場がないか、再点検しましょう。
- ◆ 大雨の後は、ほ場を巡回し排水口に稲わらなどが詰まっていないか確認しましょう。

(2) 追肥 ～ 適期追肥に努めましょう！ ～

① 幼穂形成期追肥(前号参照)

- ◆ 大麦では、ほとんどのほ場ですでに幼穂形成期に達しており、小麦も4月上旬頃に幼穂形成期に達すると予想されます。まだ幼穂形成期追肥を実施していない場合は、前号を参照に追肥しましょう。

② 減数分裂期追肥

- ◆ 大麦は、追肥が遅れると硬質麦の発生が多くなるので、次頁を参考に幼穂長や止葉葉耳間長を観察し、適期追肥に努めましょう。



- ◆ 追肥時期の幼穂長の目安は30mmです。この時期の幼穂は1日で5mm程度伸びるので、幼穂長が30mmとなる頃までには追肥作業が終わるようにしましょう。

表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
期待される効果		一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期 シュンライ ホワイトファイバー	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	ミノリムギ	4月下旬～5月上旬	
10a当たり 施用量		窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg)	
小 麦	時期	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg) (尿素9～11kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg)

※ 時期は平年の場合の大よその目安であり、実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断すること。

減数分裂期追肥時期の予測法① ～実際に幼穂長を測定して予測する～

- ◆ 減数分裂期頃の幼穂は比較的容易に確認することができます。
- ◆ 長さの中庸な主茎(1株内の最長茎)を3本以上採取し、茎の膨らんでいる部分を手で剥くか、カッターで縦方向に切り裂いて、幼穂の長さを測ります。
- ◆ 測定した幼穂長の平均が10mmであれば減数分裂期までの日数は8～12日後、20mmであれば3～4日後となります(下表)。

◎ 減数分裂期は、正確には主茎と1・2号分けつの幼穂長平均が30mmなので、主茎の幼穂長のみだと大麦の場合33～35mm程度あります。

芒は幼穂長に含めない

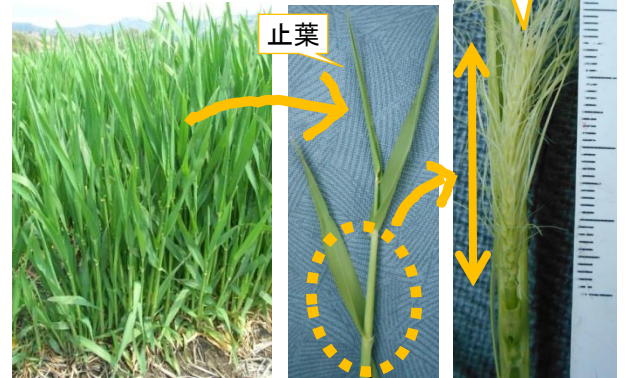


表3 減数分裂期を表中の日付に仮定した場合に、幼穂長が10mm、20mmに達する日の目安

シュンライ			ミノリムギ			シラネコムギ		
幼穂長		減数分裂期	幼穂長		減数分裂期	幼穂長		減数分裂期
10mm	20mm		10mm	20mm		10mm	20mm	
3月25日	4月 9日	4月15日	3月31日	4月 9日	4月15日	4月14日	4月20日	4月25日
4月 7日	4月15日	4月20日	4月13日	4月20日	4月25日	4月25日	5月 1日	5月 5日

※ 普及に移す技術第87号をもとに石巻アメダスの日平均気温(平年値)を使用して算出した。

※ ホワイトファイバーはシュンライに準ずる。

減数分裂期追肥時期の予測法②

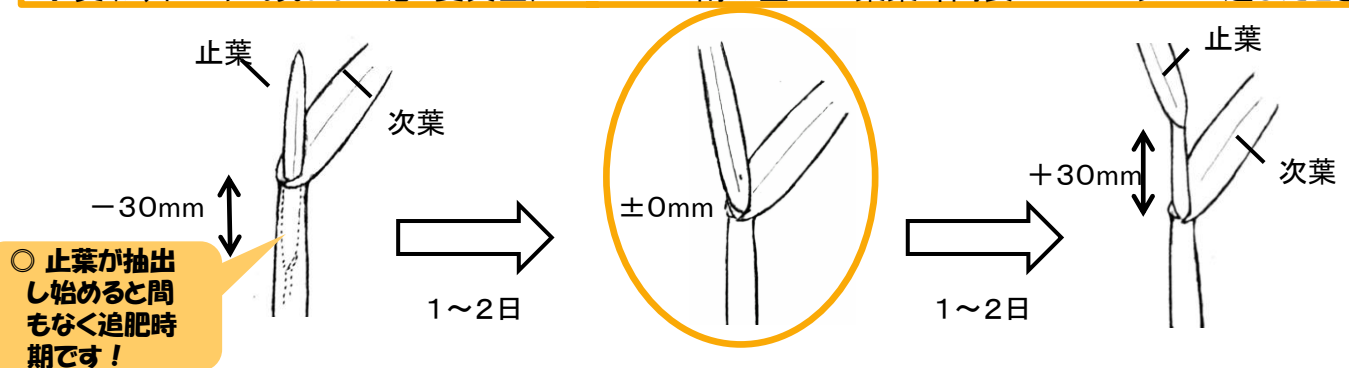
～止葉葉耳間長が±0mmを超えた茎の割合から、追肥の開始時期を判断する～

大麦(シュンライ/ミノリムギ/ホワイトファイバー)

2割程度の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき

小麦(シラネコムギ/あおばの恋/夏黄金)

4～5割の茎が止葉葉耳間長±0mm以上に達したとき

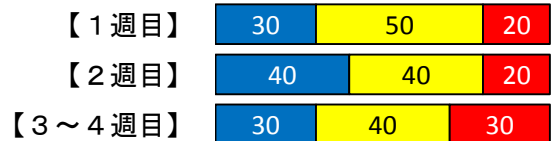
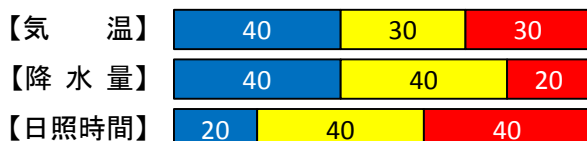


1か月予報 (3/23～4/22)
 仙台管区气象台 3月21日発表

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

■ 低い ■ 平年並 ■ 高い